

エコパーク通信



平成28年7月号

数十年の生涯で1度咲くと
言われるリュウゼツランの花



ムクゲ



ルトベキア・ヒルタ



レインリリー



アストロメリア



ハンゲンヨウ



メドセージ



エコパークとのかかわり・・・
御前崎市池新田 黒田典男



私とエコパークとの繋がりは、御前崎エコクラブの山本会長との出会いから始まりました。10数年前に「コミカレネットワーク御前崎の会」でお会いしてから、山本さんの思いに賛同しエコパークにお邪魔しました。それがきっかけでエコクラブに入会させて頂いたのは、6～7年程前でしてでしょうか。

エコパークの草木染のイベントとして、園内にあるウバメガシ・ヤマモモ・シャリンバイの木皮を染料とし、私の地元（旧浜岡町池新田）の湧水を媒染液と定着液にして染めた通称「ドンブチ染め」を数回実施させて頂きました。ドンブチ染めは御前崎市教育委員会が管理するドンブチ井戸から汲み上げた湧水を利用して定着させます。湧水を使用した草木の染物は、日本では珍しく、大正時代以前よりその井戸水を使用して染めていたといわれる羽織やモンペなどは、今も残っています。この日本中探しても類を見ない染物（染色の専門誌の方からのお墨付きあり）をもう一度復活させて、町おこし&活性化としても利用できないかと考えています。このドンブチ染めは、抗菌防臭と殺菌作用があり、近年出てきた緑茶染めに比べ約5倍程の効果があると言う事が検査機関により証明されております。昔の方は、ドンブチ染めの抗菌作用が絶大であることも体感して解っていたのかと思うと驚きです。

エコパークで育った植物を染料の材料に、これからも色んな染物に挑戦するとともに、御前崎の素晴らしさを地元はもとより全国に広めて地域の活性化につなげていけたら嬉しく思います。

仏教の食の教えに【身土不二（しんどふじ）】という言葉があるそうで、その教えは「身体と土とは一つである」とし、人間が足で歩ける身近なところ（三里四方、四里四方）で育ったものを食べ、生活すると心豊かで幸せになれるとする考え方です。生物とその生息している土地、環境とは切っても切れない関係にあるという意味合いで使われるそうです。私は「衣の【身土不二】」がこのドンブチ染めであり、これからもエコパークで自生する草木とドンブチ井戸水で染物を企画・作製し、御前崎市の特産物として取り上げられるくらいにがんばって参ります。感謝

御前崎エコクラブ会長
山本貴美枝